

令和5年度千葉県公立高等学校入学者選抜の結果について

令和5年5月17日
教育振興部学習指導課

1 全日制の課程及び定時制の課程の募集定員、入学許可候補者数等

			令和5年度	令和4年度	令和3年度
募集定員	全日制		31,120	31,480	31,080
	定時制		1,440	1,440	1,260
	計		32,560	32,920	32,340
本検査及び追検査	募集人員	全日制	30,960	31,320	30,920
		定時制	1,317	1,317	1,232
		計	32,277	32,637	32,152
	志願者数	全日制	34,793	34,637	33,517
		定時制	838	801	706
		計	35,631	35,438	34,223
	志願確定倍率	全日制	1.12倍	1.11倍	1.08倍
		定時制	0.64倍	0.61倍	0.57倍
		計	1.10倍	1.09倍	1.06倍
	受検者数 (追検査受検者数)	全日制	34,568 (43)	34,438 (177)	33,328 (8)
		定時制	828 (2)	788 (3)	692 (0)
		計	35,396 (45)	35,226 (180)	29,647 (8)
本検査 (2/21・22) 追検査 (3/1)	入学許可候補者数	全日制	28,723	29,010	28,988
		定時制	764	753	659
		計	29,487	29,763	29,647
第2次募集 (3/13)	募集人員	全日制	2,244	2,312	1,937
		定時制	553	564	573
		計	2,797	2,876	2,510
	志願者数	全日制	344	225	194
		定時制	46	45	34
		計	390	270	228
	受検者数	全日制	339	222	192
		定時制	45	43	33
計		384	265	225	
入学許可候補者数	全日制	320	215	179	
	定時制	44	43	26	
	計	364	258	205	
追加募集	募集人員	定時制	509	521	547
	志願者数		15	7	8
	受検者数		14	6	8
	入学許可候補者数		10	6	4
入学許可候補者数合計	全日制		29,043	29,237	29,168
	定時制		818	802	689
	計		29,861	30,039	29,857

- *1 全日制の「募集人員」は募集定員から県立千葉中学校及び県立東葛飾中学校からの進学者を減じた人数である。
- *2 定時制の「募集人員」は募集定員から三部制の定時制の転入学等の予定人員及び秋季入学者選抜の募集人員を減じた人数である。
- *3 追検査受検者数は受検者数の内数である。
- *4 新型コロナウイルス感染症に係る特例検査では、令和3年度選抜において全日制で1名、令和4年度選抜において全日制で12名受検し、全員が入学許可候補者となった。令和5年度選抜において申請者がなかったため実施せず。

2 通信制の課程(千葉大宮高等学校)の募集定員、入学許可候補者数等

	令和5年度	令和4年度	令和3年度
募集定員(収容できる最大数)	500	500	500
入学許可候補者数	203(1~3期)	158(1~3期)	133(1~3期)
	未(1~4期)	167(1~4期)	144(1~4期)

*5 令和5年度の四期入学者選抜は、令和5年9月6日に実施する。

5 結果の概要

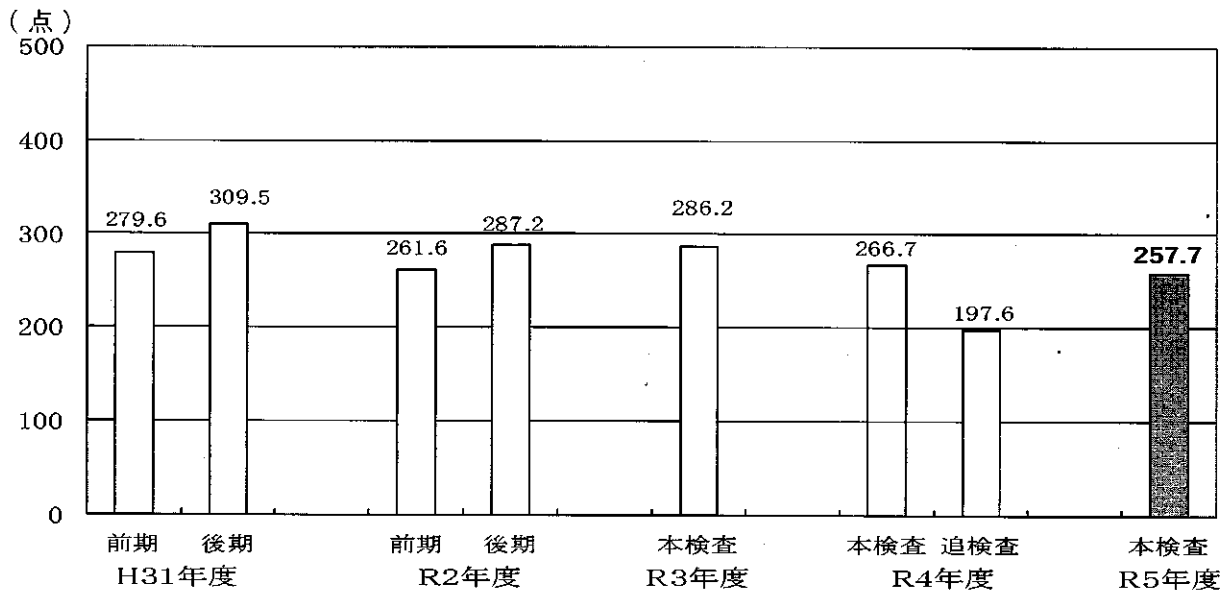
【表】各教科及び5教科の平均点

()内は標準偏差

		国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	5 教 科
令和 5 年度	本検査	47.9 (15.5)	54.5 (19.8)	47.0 (18.8)	60.7 (21.9)	47.6 (23.2)	257.7 (90.6)
	追検査						
令和 4 年度	本検査	47.7 (16.7)	56.3 (21.3)	51.5 (21.2)	52.7 (21.4)	58.7 (23.9)	266.7 (94.3)
	追検査	50.6 (16.9)	50.3 (23.2)	38.6 (20.0)	45.1 (20.2)	46.9 (23.5)	197.6 (109.0)
令和 3 年度	本検査	52.8 (17.7)	57.7 (21.3)	59.3 (21.3)	54.6 (18.7)	61.7 (26.1)	286.2 (94.0)
	追検査						

※令和3年度及び令和5年度追検査については、受検者が少ないことから、平均点を記していない。

【図】5教科の平均点の経年変化



各教科及び5教科合計の平均点は、【表】に示したとおりである。

また、5教科の平均点の経年変化を【図】に示した。令和5年度の本検査の5教科の平均点を見ると、前年度の本検査より9.0点低かった(令和3年度及び令和5年度追検査については、受検者が少ないことから、平均点を記していない)。

なお、本検査受検者の得点分布については、16、17ページに示した。

Ⅲ 【本検査】教科別の結果

1 国 語 (本検査)

(1) 出題内容等

学習指導要領の趣旨に沿って、基礎的・基本的な〔知識及び技能〕及び〔思考力・判断力・表現力等〕が適切にみられるようにした。

大問一（聞き取り検査）は、文化祭でミュージック・カフェを催すにあたり、その宣伝文句について相談している場面を放送で聞き、話し手の表現に着目することで、その視点を捉え、他者に的確に伝わるような表現を考える問題である。

大問四（説明的な文章）(5)は同じ著作の関連する箇所を、また、大問五（文学的な文章）(5)及び大問六（古典）(4)は、授業でそれぞれの文章を読んだ生徒の話し合いの場面を別資料として提示し、複数資料の分析を通じてさらに深く読み解き、適切に自分の考えを表現する力をみる問題である。

大問七（条件作文）は、諸外国との文化交流について、「文化に関する世論調査 報告書」の年齢別の割合を示した表を手がかりに自分の考えを整理し、的確に伝わる文章となるように工夫して書く問題である。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=3,376

領域(事項)	問題・配点	正答率(%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	二、三、四(1) 20点	71.8
情報の扱い方に関する事項	四(5)、五(5)、六(4) 30点	32.0※
我が国の言語文化に関する事項	六(1)(2)(3) 8点	35.0※
話すこと・聞くこと	一 8点	72.2
書くこと	七 12点	36.8※
読むこと	四(2)(3)(4)(6)、五(1)(2)(3)(4) 22点	53.5

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は47.9点で、前年度と比べて0.2点高くなった。

領域(事項)別の正答率は、「話すこと・聞くこと」が72.2%と最も高く、次いで、「言葉の特徴や使い方に関する事項」が71.8%であった。一方、「情報の扱い方に関する事項」が32.0%と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問二「漢字(読み)」(1)「招(いて)」、(3)「曖昧」、及び(2)「慎(む)」であった。一方、正答率が低かった問題は、大問五の(5)(c)X「文章中の表現についての理解と表現(30字以上、40字以内)」、大問五の(2)I「文章の内容の理解と表現(7字以内)」及び大問四の(5)Ⅲ「文章の内容の理解と表現(15字以上、20字以内)」であった。

無答率が高かった問題は、大問五の(5)(c)X「文章中の表現についての理解と表現(30字以上、40字以内)」、大問四の(5)Ⅲ「文章の内容の理解と表現(15字以上、20字以内)」及び大問五の(5)(c)Y「文章中の表現の理解(2字)」であった。

(4) 問題の内容

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
		選択	短答	記述				
一	(1)	放送による聞き取り 文化祭のクラスの催し物について相談している場面	会話の理解	<input type="radio"/>		37.9	0.1	
	(2)		会話の流れの理解	<input type="radio"/>		76.0	0.1	
	(3)		会話の流れの理解	<input type="radio"/>		83.9	0.1	
	(4)		会話の流れを受けてのまとめ	<input type="radio"/>		91.0	0.0	
二	(1)	漢字 (読み)	招 (いて) [まね]		<input type="radio"/>	98.3	0.2	
	(2)		慎 (む) [つつし]		<input type="radio"/>	92.1	1.4	
	(3)		曖昧 [あいまい]		<input type="radio"/>	96.4	0.9	
	(4)		辛辣 [しんらつ]		<input type="radio"/>	77.0	4.1	
三	(1)	漢字 (書き)	浅 (い)		<input type="radio"/>	90.0	4.9	
	(2)		拝 (む)		<input type="radio"/>	65.2	17.0	
	(3)		批評		<input type="radio"/>	69.8	7.6	
	(4)		創刊		<input type="radio"/>	28.2	29.8	
	(5)		序列		<input type="radio"/>	57.5	20.4	
四	(1)	説明的な文章 『モチベーションの心理学』	品詞の識別	<input type="radio"/>		43.3	0.5	
	(2)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>		74.0	0.8	
	(3)		文章の内容の理解 (完答)	<input type="radio"/>		72.7	0.1	
	(4)		I	文章の内容の理解 (5字)		<input type="radio"/>	45.9	26.7
			II	文章の内容の理解 (13字)		<input type="radio"/>	24.7	41.9
	(5)		I	文章の内容の理解		<input type="radio"/>	70.1	8.4
			II	文章の内容の理解 (3字)		<input type="radio"/>	19.9	49.3
			III	文章の内容の理解と表現 (15字以上、20字以内)		<input type="radio"/>	6.4	
	(6)						5.3	
	五		(1)	文学的な文章 『風を彩る怪物』	文章の構成の理解	<input type="radio"/>		56.2
(2)		I	文章中の表現の理解		<input type="radio"/>		75.3	1.3
		II	文章の内容の理解と表現 (7字以内)			<input type="radio"/>	7.0	35.4
(3)		文章の内容の理解と表現 (8字以内)			<input type="radio"/>	40.0	28.4	
(4)		I	登場人物の心情の理解		<input type="radio"/>		75.9	3.0
		II	登場人物の心情の理解		<input type="radio"/>		63.5	5.2
(5)		(a)	文章中の表現の理解 (5字)			<input type="radio"/>	64.8	20.1
		(b)	文章中の表現の理解 (11字)			<input type="radio"/>	15.2	22.3
		(c)	文章中の表現の理解		<input type="radio"/>		48.3	15.1
(c) X		文章中の表現についての理解と表現 (30字以上、40字以内)			<input type="radio"/>	2.0		
(c) Y					3.2			
六	(1)	古典 『宇治拾遺物語』	文章中の表現の理解 (2字)		<input type="radio"/>	10.6	50.0	
	(2)		歴史的仮名遣い		<input type="radio"/>	63.5	4.5	
	(3)		文章の内容の理解	<input type="radio"/>		19.7	4.9	
			登場人物の心情の理解と表現 (20字以上、25字以内)		<input type="radio"/>	12.7		
	(4)		文章の内容の理解と表現 (5字以上、10字以内)		<input type="radio"/>	9.7	43.4	
	(4)		登場人物の心情の理解	<input type="radio"/>		34.3	15.3	
七	12点	条件作文 「日本と諸外国との文化交流を進めることの意義」について	漢文訓読法		<input type="radio"/>	66.9	11.1	
	8~11点		条件をふまえて書く二段落構成の作文 (200字以内)		<input type="radio"/>	9.6		
	4~7点		・前段は資料から読み取ったことと、自分の考えを書く		<input type="radio"/>	18.3		
	1~3点		・後段はどのような文化交流を行いたい か、理由を含めて考えを書く		<input type="radio"/>	23.0		
	無答					13.3		
					13.4			

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが該当の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

2 社 会 (本検査)

(1) 出題内容等

各分野において、「基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができる問題」を出題した。

「現代社会の諸課題に対する関心や理解の程度をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問 1(2)、大問 2(2)(3)、大問 7(2)、大問 8(1)(2)である。

「諸資料を活用し、社会的事象を判断・分析する力をみることができる問題」を多く出題した。具体的には、大問 1(4)、大問 2(2)、大問 3(5)、大問 6(3)、大問 7(3)である。

「社会的事象について、自らの思考を表現する力をみることができる問題」を、地理的分野、歴史的分野、公民的分野からそれぞれ 1 問ずつ出題した。具体的には、大問 2(3)、大問 5(4)、大問 7(3)である。

総合問題と歴史的分野において、できごとなどを年代の古いものから順に並べ替える問題を、総合問題から 1 問、歴史的分野から 2 問出題した。具体的には、大問 1(1)、大問 4(3)、大問 5(2)である。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=3,380

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正答率 (%)	
総 合	総 合 問 題	1 12点	49.1	
地理的分野	日 本 地 理	2 16点	75.0※	72.0※
	世 界 地 理	3 15点	69.0	
歴史的分野	前 近 代 史	4 15点	50.4	48.3※
	近 ・ 現 代 史	5 16点	46.2※	
公民的分野	国民生活と経済・社会	6 10点	48.7	45.5※
	日本の政治制度	7 10点	46.3※	
	国 際 社 会	8 6点	39.4	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は54.5点で、前年度と比べて1.8点低くなった。

分野・内容別の正答率は、地理的分野の「日本地理」が75.0%と最も高く、公民的分野の「国際社会」が39.4%と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問 3(4)「オーストラリアの地域と国旗の特徴」、大問 5(1)「岩倉使節団」及び大問 2(2)「都市部の防災施設」であった。一方、正答率が低かった問題は、大問 5(4)「満州国の建国に関する記述」、大問 7(3)「国会の種類に関する記述」及び大問 6(2)「金融の種類」であった。

無答率が高かった問題は、大問 5(4)「満州国の建国に関する記述」、大問 7(3)「国会の種類に関する記述」及び大問 6(2)「金融の種類」であった。

(4) 問題の内容

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
			選択	短答	記述				
1	(1)	総合問題	廃藩置県のことから		○		38.5	0.1	
	(2)		ヒートアイランド現象のことから			○	79.6	6.1	
	(3)		公共サービスのことから		○		52.0	0.2	
	(4)		山地面積、海岸線の長さ、人口増減率、海水浴場数、スキー場数に関する資料の読み取り		○		26.4	0.2	
2	(1)	日本地理	7地方区分、静岡県のことから			○	79.5	2.2	
	(2)		都市部の防災施設		○		86.0	0.1	
	(3)		4点	京都市のまちづくりについての記述				49.1	/
			1~3点					20.8	
	(4)		①	新旧の地形図の変化や方位、地図記号等の読み取り		○		71.2	0.2
			②	地形図の等高線の読み取り		○		78.8	0.1
3	(1)	世界地理	メルカトル図法中における経線と赤道の読み取り		○		35.1	0.0	
	(2)		時差		○		59.2	0.1	
	(3)		アメリカ合衆国の農業地域の特徴		○		83.4	0.1	
	(4)		オーストラリアの地域と国旗の特徴			○	89.9	0.7	
	(5)		韓国・フランス・インドネシア・日本の人口、固定・携帯電話100人あたりの契約数に関する資料の読み取り		○		77.5	0.2	
4	(1)	前近代史	弥生時代のことから		○		29.3	0.1	
	(2)		口分田			○	70.7	9.1	
	(3)		鎌倉時代のことから		○		25.7	0.5	
	(4)		天保の改革		○		73.6	0.2	
	(5)		江戸時代の貿易		○		52.7	0.1	
5	(1)	近・現代史	岩倉使節団		○		86.4	0.0	
	(2)		日清戦争から第一次世界大戦までのことから		○		24.1	0.3	
	(3)		ワシントン会議		○	○	39.3	1.0	
	(4)		4点	満州国の建国に関する記述				7.0	/
			1~3点					9.9	
(5)		大阪万博		○		69.1	0.2		
6	(1)	経済	消費者を守る制度		○		78.8	0.1	
	(2)		金融の種類			○	15.4	17.4	
	(3)		商品やサービスの購入を検討する際に情報を得ているものに関する資料の読み取り		○		52.0	0.3	
7	(1)	政治	人権思想の歴史		○		59.3	0.3	
	(2)		情報公開制度			○	66.2	12.5	
	(3)		4点	国会の種類に関する記述				10.2	/
			1~3点					6.5	
(5)						18.9			
8	(1)	国際	地域統合		○		53.8	0.4	
	(2)		TPP			○	24.9	9.0	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが該当の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

3 数 学 (本検査)

(1) 出題内容等

大問1は、各領域の基本的な問題である。

大問2の(2)は、正方形 ABCD の点 A と点 C が 2 直線上にあるとき、条件を満たす点 D の座標を求める問題である。

大問3は、円周角の定理を利用し、2つの三角形が相似であることを証明するとともに、図形の性質を利用して線分の長さを求める問題である。

大問4は、じゃんけんを用いたゲームに関する会話文や表から、正確に情報を読み取り、文字を用いた式やことば等で表現する問題である。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=3,376

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正答率 (%)	
数 と 式	正の数と負の数	1(1)①、4(1)①(a)(c)	9点	77.4	53.9※
	文字を用いた式	1(1)②、 4(1)②(d)(e)(2)	17点	28.9※	
	簡単な多項式の計算	1(1)③ (2)①	8点	69.0	
	根号を含む式の計算	1(2)②	3点	53.6	
図 形	平面図形	1(4)① (7)、3(1)③	19点	42.0※	34.7※
	空間図形	1(4)②	3点	29.7	
	図形の相似	3(2)	6点	10.7※	
関 数	関数 $y = ax^2$	1(6)①②	6点	55.1	46.3
	一次関数	2(1)①② (2)	15点	40.4	
データの活用	データの分布	1(3)①②	6点	73.3	59.1
	不確定な事象の 起こりやすさ	1(5)①②、4(1)①(b)	8点	49.6	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は47.0点で、前年度と比べて4.5点低くなった。

領域・内容別の正答率は、数と式の「正の数と負の数」が77.4%と最も高く、図形の「図形の相似」が10.7%と最も低かった。

また、次の表にあるように、数と式の領域では、大問1の(1)①「正の数と負の数(四則計算)」の正答率が94.7%と最も高く、大問4の(2)「文字を用いた式」の正答率が最も低かった。

図形の領域では、大問3の(1)「平面図形(円周角と中心角の関係)」の正答率が80.9%と最も高く、大問3の(3)「平面図形(相似の応用)」の正答率が0%と最も低かった。

関数の領域では、大問2の(1)①「一次関数(点のx座標)」の正答率が89.0%と最も高く、大問2の(2)「一次関数(点の座標)」の正答率が4.4%と最も低かった。

データの活用の領域では、大問1の(3)②「データの分布(度数分布表・箱ひげ図)」の正答率が78.4%と最も高く、大問1の(5)①「不確定な事象の起こりやすさ(場合の数)」の正答率が46.9%と最も低かった。

無答率が高かった問題は、大問4の(2)「文字を用いた式」、大問2の(2)「一次関数(点の座標)」であった。

(4) 問題の内容

問		問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
				選択	短答	記述			
1	(1)	①	数と式	正の数と負の数 (四則計算)		○	94.7	0.2	
		②		文字を用いた式 (四則演算)		○	77.8	1.9	
		③		簡単な多項式の計算 (式の展開)		○	72.1	1.4	
	(2)	①	数と式	簡単な多項式の計算 (因数分解)		○	65.8	5.7	
		②		根号を含む式の計算		○	53.6	6.6	
	(3)	①	データ	データの分布 (相対度数)		○	68.2	7.3	
		②		データの分布 (度数分布表・箱ひげ図)	○		78.4	0.6	
	(4)	①	図形	平面図形 (正方形の対角線の長さ)		○	66.7	4.0	
		②		空間図形 (正八面体の体積)		○	29.7	18.0	
	(5)	①	データ	不確定な事象の起こりやすさ (場合の数)		○	46.9	0.9	
		②		不確定な事象の起こりやすさ (確率)		○	52.7	2.6	
	(6)	①	関数	関数 $y = ax^2$ (点のy座標)		○	87.4	3.6	
		②		関数 $y = ax^2$ (xの変域・yの変域)		○	22.8	14.3	
	(7)	6点	図形	平面図形 (作図)		○	17.0	/	
3点		6.5							
無答		27.2							
2	(1)	①	関数	一次関数 (点のx座標)		○	89.0	3.6	
				一次関数 (一次関数の式)		○	27.9	34.7	
	(2)	一次関数 (点の座標)		○	4.4	58.0			
3	(1)	図形	平面図形 (円周角と中心角の関係)	○	○	80.9	0.6		
	(2)		図形の相似 (三角形の相似の証明)		○	8.7	/		
				4.0					
				33.8					
(3)	平面図形 (相似の応用)		○	0	46.9				
4	(1)	(a)	数と式	正の数と負の数		○	83.8	1.6	
		(b)		データ	不確定な事象の起こりやすさ (場合の数)		○	49.2	4.4
		(c)		数と式	正の数と負の数		○	53.6	6.9
	(2)	(d)	数と式	文字を用いた式		○	27.1	37.5	
		(e)		文字を用いた式		○	8.6	52.0	
		4点		文字を用いた式		○	1.5	/	
		2点			1.2				
無答	82.8								

※ 正答率の「0.0%」はごくわずかではあるが該当の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

4 理 科 (本検査)

(1) 出題内容等

学習指導要領に基づいて、基礎的・基本的な知識・技能の習得、科学的なものの見方や思考力・判断力・表現力を身に付けているかをみることができるようにした。本年度も「観察、実験を題材とした問題」、「身近な生活に関わりのある問題」を出題した。小問集合以外では、「観察、実験を題材とした問題」は大問2・3・4・5・6・7・8・9、「身近な生活に関わりのある問題」は大問5・7・9である。表現力をみる問題として、理由を自分の言葉で説明する記述式の問題や、作図やグラフの問題を取り入れている。記述式は、昨年度の本検査5問に対し、本年度の本検査は4問である。作図やグラフは、昨年度の本検査と同様に2問である。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=3,380

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正 答 率 (%)
第 1 分 野	物 理	運動とエネルギー	1(4) 3点 61.2
		身近な物理現象	2 12点 43.2
		電流とその利用	8 10点 56.1
	化 学	身の回りの物質	1(1) 3点 66.5
		化学変化と原子・分子	4 10点 67.0
		化学変化とイオン	6 12点 65.2
第 2 分 野	生 物	生物の体のつくりと働き	1(2) 3点 86.4
		生命の連続性	3 10点 58.6
		いろいろな生物とその共通点	9 12点 67.0
	地 学	気象とその変化	1(3) 3点 67.3
		大地の成り立ちと変化	5 10点 54.0
		地球と宇宙	7 12点 63.9

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は60.7点で、昨年度と比べて8.0点高くなった。

分野・内容別の正答率は、第1分野・化学の大問4「化学変化と原子・分子」、第2分野・生物の大問9「いろいろな生物とその共通点」が67.0%で最も高かった。一方、第1分野・物理の大問2「身近な物理現象」が43.2%と最も低かった。なお、大問1は各分野の基礎的・基本的な知識を問う小問集合であり、正答率の平均が70.4%であった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問3の(2)「哺乳類の特徴」、大問7の(1)「恒星の特徴」及び大問8の(1)「交流の特徴」であった。一方、正答率が低かった問題は、大問2の(2)(c)「台ばかりの目もり〔作図〕」、大問3の(4)「進化」及び大問8の(3)「コイルの周辺の磁界のようす」であった。

無答率が高かったのは、大問5の(4)「海岸段丘」、大問2の(2)(c)「台ばかりの目もり〔作図〕」及び大問8の(2)「磁力線」であった。

(4)問題の内容

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
		選択	短答	記述			
1	(1) 溶液に溶けている物質		○		66.5	3.7	
	(2) 葉緑体		○		86.4	2.2	
	(3) 小笠原気団	○			67.3	0.1	
	(4) 平均の速さ〔計算〕	○			61.2	0.2	
2	(1) 作用点		○		74.7	1.7	
	(2)	(a) 台ばかりの目もり〔計算〕		○		39.6	2.9
		(b) ばねののび〔計算〕		○		52.9	6.1
		(c) 台ばかりの目もり〔作図〕			○	5.7	11.5
3	(1) シンチョウの特徴	○			64.1	0.1	
	(2) 哺乳類の特徴	○			93.6	0.1	
	(3) コケ植物とシダ植物の特徴	○			54.3	0.3	
	(4) 進化			○	22.5	7.3	
4	(1) 化合物	○			74.9	0.1	
	(2) 化学反応式		○		66.8	8.0	
	(3) 鉄と硫黄の反応する質量比	○			82.4	0.8	
	(4) 鉄と硫黄の反応する質量〔計算〕		○		44.0	2.2	
5	(1) 侵食(浸食)		○		73.5	4.5	
	(2) 土砂の分類とチバニアンを含む時代区分	○			40.4	0.4	
	(3) 調べたことの考察	○			60.6	0.5	
	(4) 海岸段丘			○	41.3	12.2	
6	(1) 陽イオン	○			76.3	0.1	
	(2) 金属間の電子のやりとり		○		57.1	4.6	
	(3) イオン化傾向	○			76.8	0.2	
	(4) 硫酸イオンの数の変化	○			50.7	0.7	
7	(1) 恒星の特徴			○	84.0	6.2	
	(2) 地球の自転	○			71.4	0.2	
	(3) 星の動き	○			65.1	0.4	
	(4) ベテルギウスの動きと南中する時刻〔計算〕	○			35.0	0.4	
8	(1) 交流の特徴	○			83.0	0.4	
	(2) 磁力線		○		58.7	9.6	
	(3) コイルの周辺の磁界のようす		○		34.5	2.3	
	(4) 電流を大きくしたときの方位磁針のようす〔作図〕			○	48.2	7.8	
9	(1) 葉のつき方			○	74.2	6.2	
	(2) ルーペの使い方	○			82.3	0.7	
	(3) 合弁花	○	○		46.2	1.3	
	(4) 胞子と胞子のう		○		65.2	4.1	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが該当の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

5 英 語 (本検査)

(1) 出題内容等

出題内容は、知識や理解力をみる基礎・基本の問題及び、活用・応用として「思考力・判断力・表現力」をみる問題を出題した。「思考力・判断力・表現力」をみる問題に該当するのは、大問4 No. 1①②、No. 2①②、大問6(1)(2)、大問7(1)①、大問7(2)①、大問8(3)及び大問9(4)である。

大問4 No. 1①②、No. 2①②はリスニング問題で、英語の文章を聞き、その内容について答える問題である。聞いた内容を理解した上で、空所に適切な語を補い、まとめの文を完成させる形式になっている。

大問6(1)(2)は英作文問題で、絵を見て状況を理解し、絵の中の人物の立場に立って思考・判断し、英文で適切に表現する問題であり、実践的なコミュニケーションをより強く意識した問題となっている。

大問7(1)①、大問7(2)①、大問8(3)及び大問9(4)は、英文から複数の情報を正しく読み取り、内容を理解したうえで思考・判断し、適切に表現する問題になっている。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=3,377

領 域 ・ 内 容		問題・配点	正答率 (%)	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト (対話を聞いて答える)	1 9点	66.8	49.3
	リスニングテスト (聞いて絵を見て答える)	2 6点	78.9	
	リスニングテスト (対話やまとまりのある文章を聞いて答える)	3 6点	50.2	
	リスニングテスト (まとまりのある文章を聞いて答える) 単語のつづり	4 12点	21.0	
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	7 18点	43.1	44.4※
	長い文章の読解	8 13点	38.2※	
	対話文の流れの理解	9 13点	52.6※	
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	5 15点	52.6	50.2※
	英語による自己表現 (絵を見て状況を把握し、対話を完成する)	6 8点	44.1※	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結果の説明

全体の平均点は47.6点で、前年度と比べて11.1点低くなった。

領域・内容別の正答率は、聞くこと(話すこと)の「リスニングテスト(聞いて絵を見て答える)」が78.9%と最も高かった。一方、聞くこと(話すこと)の「リスニングテスト(まとまりのある文章を聞いて答える)単語のつづり」が21.0%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問2のNo.1「対話を聞いて絵を選ぶ」及び大問7の(1)②「内容と合うグラフを選ぶ」であった。一方、正答率が低かったのは、大問4のNo.1②「文章を聞き、その内容を表す文の空欄にenjoyのつづりを完成する」及び大問7の(2)①「内容と合う英語を補充する」であった。

無答率が高かったのは、大問9の(4)「英語による自己表現(会話文の流れに合うよう表現する)」及び大問4のNo.2②「文章を聞き、その内容を表す文の空欄にfavoriteのつづりを完成する」であった。前年度に比して、聞くことの正答率が約15ポイント低下し、書くことの正答率も約18ポイント低下した。

(4) 問題の内容

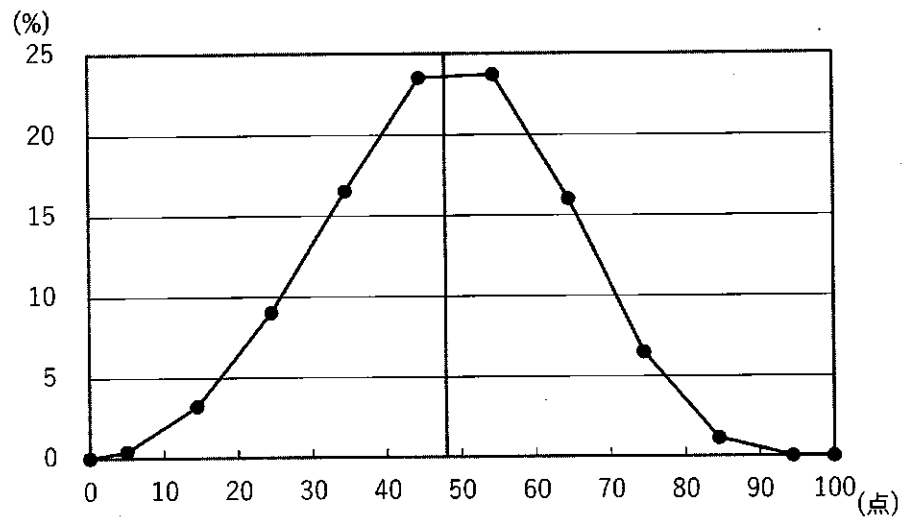
問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
			選択	短答	記述				
1	No. 1	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○			75.0	0.1		
	No. 2	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○			72.3	0.1		
	No. 3	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ	○			53.0	0.1		
2	No. 1	対話を聞いて絵を選ぶ	○			91.5	0.1		
	No. 2	文章を聞いて絵を選ぶ	○			66.3	0.1		
3	No. 1	対話を聞いて英語を選ぶ	○			59.6	0.1		
	No. 2	文章を聞いて英語を選ぶ	○			40.7	0.4		
4	No. 1	①	文章を読み、その内容を表す文の空欄に things のつづりを完成する		○		36.6	33.1	
		②	文章を読み、その内容を表す文の空欄に enjoy のつづりを完成する		○		4.4	27.5	
	No. 2	①	文章を読み、その内容を表す文の空欄に agree のつづりを完成する		○		19.1	34.8	
		②	文章を読み、その内容を表す文の空欄に favorite のつづりを完成する		○		24.0	37.5	
5	(1)	動詞 perform を名詞 performance にする		○		34.7	7.0		
	(2)	助動詞 will を過去形 would にする		○		69.8	5.2		
	(3)	語順整序 (She is good at making plans.)	○			46.5	0.3		
	(4)	語順整序 (Do you know someone looking for a towel?)	○			39.4	0.2		
	(5)	語順整序 (Will you show me the pictures you took on your trip?)	○			72.6	0.3		
6	(1)	4点	英語による自己表現(絵を見て状況を表現する) (解答例) Let's go to a restaurant to eat something for dinner. (10語)			○	23.4	/	
		1~3点					○		39.4
		無答							10.4
	(2)	4点	英語による自己表現(絵を見て状況を表現する) (解答例) I've lost my key. Tell me what I should do. (10語)				○	25.3	/
		1~3点					○	39.4	
		無答						11.3	
7	(1)	①	内容と合う英語を補充する		○		28.6	10.8	
		②	内容と合うグラフを選ぶ	○			75.2	0.4	
		③	内容と合う英語を選ぶ	○			49.7	0.4	
		④	内容と合う英語を選ぶ	○			49.2	0.9	
	(2)	①	内容と合う英語を補充する		○		6.7	12.8	
		②	内容と合う英語を選ぶ	○			48.9	0.5	
8	(1)	内容と合う英語を選ぶ	○			46.0	0.5		
	(2)	文脈に合わせて英語を適切な場所に補充する	○			46.0	0.8		
	(3)	4点	英語の質問に英語で答える				○	14.4	/
		1~3点					○	17.9	
		無答						28.9	
(4)	内容と合う英語を選ぶ	○			37.6	1.2			
9	(1)	文脈に合わせて英語を選ぶ	○			69.8	0.3		
	(2)	文脈に合わせて英語を選ぶ	○			64.3	0.4		
	(3)	文脈に合わせて英語を選ぶ	○			59.3	0.6		
	(4)	4点	英語による自己表現(会話文の流れに合うよう表現する) (解答例) If I try something first, my classmates will follow me. (10語)				○	8.4	/
		1~3点					○	17.2	
	無答						43.5		

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではある該当の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

IV 【本検査】受検者の得点分布

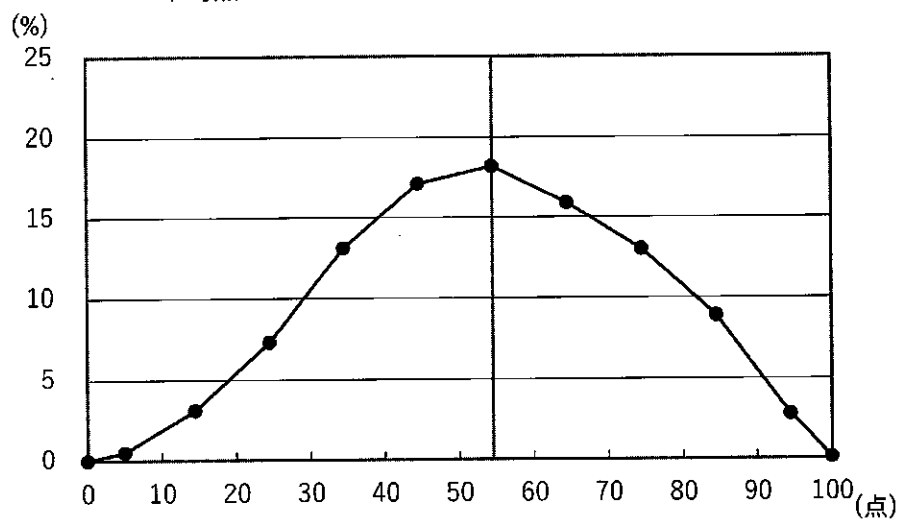
1 国語

平均点 47.9 標準偏差 15.5



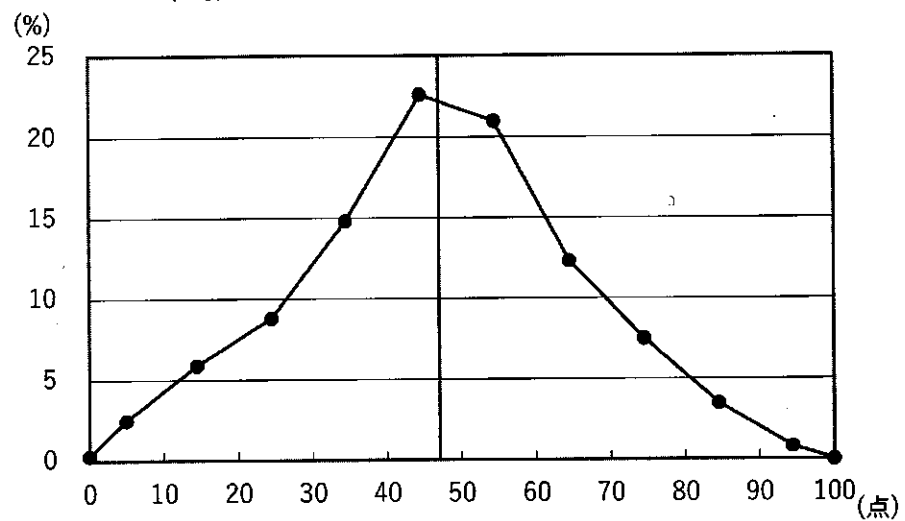
2 社会

平均点 54.5 標準偏差 19.8



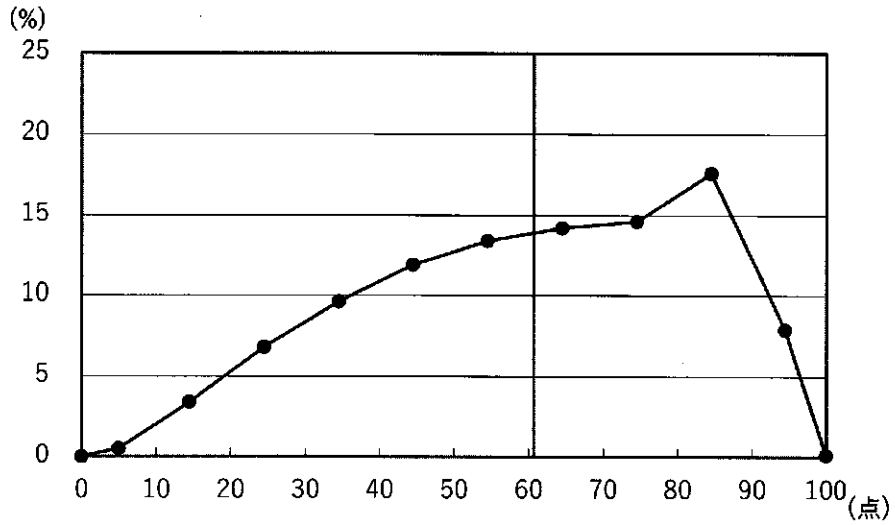
3 数学

平均点 47.0 標準偏差 18.8



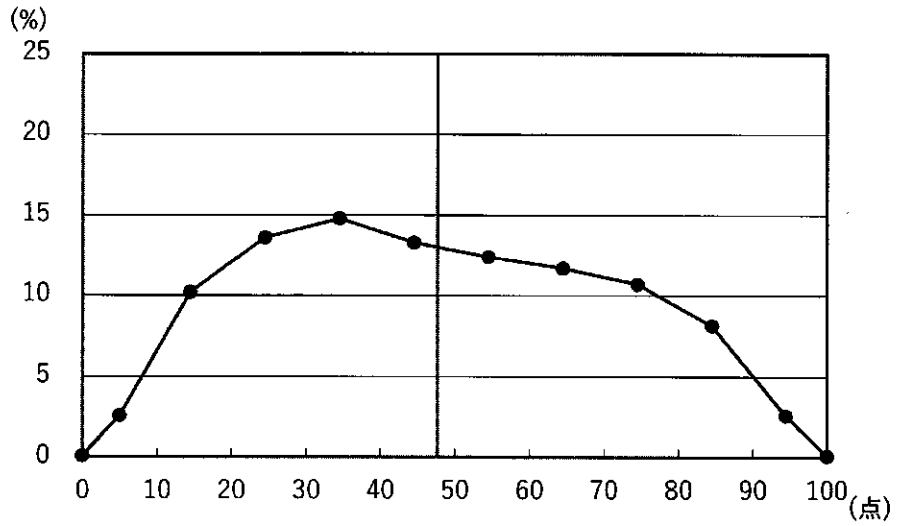
4 理科

平均点 60.7 標準偏差 21.9



5 英語

平均点 47.6 標準偏差 23.2



6 5教科得点合計

平均点 257.7 標準偏差 90.6

